

# 特集

〈事例〉

## 認知度向上の広報に注力しつつ 本誌を参考に会員活動を推進

公益社団法人  
魚沼市シルバー人材センター

(新潟県)

魚沼市SCは、地方紙やFMラジオ、市役所庁舎内の広報用モニターなどさまざまな機会を捉え、普及啓発活動を行っている。「シルバーの日」には、地域貢献として会員がごみ拾いのボランティア活動をしている。また、令和3年度から『月刊シルバー人材センター』の購読部数を増やし、理事会および会員代表の委員全員に配布。新たな取り組みに掲載事例を参考にし、大いに活用している。

魚沼市は、平成十六年十一月に二町四村が合併して誕生した。新潟県南東部に位置し、夏は高温多湿、冬は3m超の積雪がある全国有数の豪雪地帯である。

魚沼市SCは、平成元年に小出町SCとして設立。魚沼市誕生に伴い、平成十七年四月に魚沼市SCとなった。契約金額は増加しているものの、会員数が伸び悩んでいることが課題の一つ。

また、庭木の冬囲いや屋根の雪下ろしなどの依頼が多く、市民から頼りにされているが、どのような組織かは十分に知られていないのが現状で、認知度向上のためにさまざまな普及啓発活動に努めている。

### 「シルバーの日」にごみ拾いボランティアを実施

魚沼市SCでは、全シ協が定めた十月第三土曜日の「シルバーの日」に、地域貢献として会員が地区ごとにごみ拾いをするボランティア活動を行っている。

令和元年度と二年度は市内で熊の出没情報があり中止せざるを得なかったが、平成三年度は市内を六つに分けた全地区（小出地区、堀之内地区、湯之谷地区、広神地区、守門地区、入広瀬地区）で、合わせて九十四人の会員がごみ拾いに汗を流した。

これまで、センター名入りの作業用ベストを持っている会員は



魚沼市SCでは、「シルバーの日」にごみ拾いボランティアを地区ごとを実施

令和三年度に新調したのぼり旗。常時、センター事務所前に掲出している



## 市広報やラジオなどの 有料広告でアピール

市民に広くアピールする普及啓発活動として、地方紙に会員募集や仕事募集の広告を適宜掲載したり、市の広報に会員募集や入会説

着用してボランティア活動を行っていたが、令和三年度に作成した「会員募集中!」「安全就業実施中」ののぼり旗を、今後は作業場所に掲出する予定である。

のぼり旗は常時、センター事務所周辺に掲出して、認知度向上と安全就業への意識高揚に役立てている。

明会の告知記事の掲載を依頼し協力を得たりしている。これらに加え、令和三年度から次の二種の有料広告を出している。

一つは、市役所庁舎内の玄関口に設置された広報用のテレビモニターを活用した動画。市からのお知らせなどの間にスポットで「会員募集」「こんなお仕事を引き受

けたいします」などの文字と写真連絡先が映し出される。

もう一つは、コミュニティ放送の「エフエム魚沼」で流すラジオCM。一回三十秒のCMを三パターン(会員募集編、社長編、お仕事募集編)制作し、月々金曜日、一日につき一、二回放送している。こうした広告の効果として、魚

沼市SCを知ってもらうこと、身近に感じてもらうことを狙い、しばらく継続していく方針だ。

## 印象に残る入会説明会や 会員による口コミも推進

入会説明会も普及啓発活動の場と考え、毎月十五日、定期的に開催している。これに加えて、入会者が比較的多くなる四〜六月と三月は一回増やし、月末の夜間にも実施している。

参加者は多くても十人前後で、密にならない環境に配慮し、コロナ禍でも開催してきた。当日は、事務局からの説明のほか、会員代表として理事が話す機会を設け、入会をするしなやかかわらず、参加者の印象に残る説明会にすることを心掛けていく。

一方、センターの会報「シルバーだより魚沼」(年二回発行)も親しみやすい内容にして、会員、魚沼市、賛助会員(発注者などの企業)に郵送し、活動をアピールし



市役所庁舎内の広報用テレビモニターに映し出された、魚沼市SCのPR動画。玄関口に設置されているので、大勢の目に触れやすい

ている。A4判八ページ、オールカラーで、定時総会、安全就業の取り組み、講習会などの報告をはじめ、会員の声、職員の紹介、今後の予定などを掲載。写真も多用し、手に取りやすい内容になっている。

さらに現在、ホームページの充実にも取り組んでいる。発注を考えている事業所はもろろんのこと、シニア世代にもスマートフォンからアクセスする人が増えているようなので、さらにアピールできる内容にしていきたいという。

また、会員拡大に最も効果的な会員による口コミ運動を展開すると同時に、会員の満足度をアップする活動の推進にも注力している。口コミ運動は、「1会員1入会運動」「1会員1仕事開拓運動」で、口コミを通じて入会者を紹介した会員に対する謝礼制度もある。

会員の満足度アップは、女性会員の集いの場として「花の女子会」、高齢会員のための「ゴールド会員

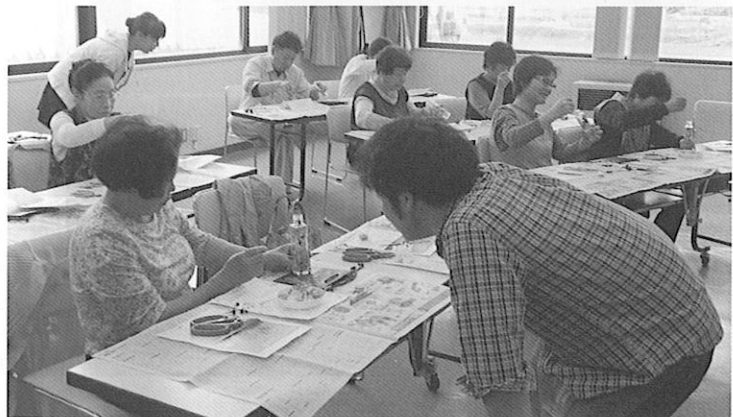
制度」を推進。また、互助会やサークル活動の開始を模索し、現在、会員にアンケート調査をしている。

このほか、「安全就業に努め、いい仕事をすることも普及啓発につながる」と促しています。真面目な会員が多く、仕事に対してお客さまから高評価をいただくことが多いのですが、今後も安全就業と技術、サービスの向上に努めます」と小林雅巳常務理事兼事務局長は語る。

### 本誌の記事で多くのヒント 先進センターに学ぶ

こうした魚沼市SCの取り組みは、『月刊シルバー人材センター(以下、月刊シルバー)』の記事から、多くのヒントを得ている。

新たに取り組みたいことや拡張したいこととして、高齢会員への施策としてのゴールド・プラチナ会員制度、農園やサロンなどの独自事業の工夫、就業以外の楽しみや居場所づくり(互助会やサーク



女性会員の集いの場「花の女子会」。写真上は、令和元年六月に開催したハーバリウム教室。講師の指導を受けて真剣に作ったり、おしゃべりをしたりしながら製作した。ハーバリウム教室終了後には、お茶会を催した(写真左)

ル活動)、女性会員に関する各センターの取り組みにも学ぶことが多いそうだ。「取り組みのきつかけから、どのように推進しているのかが詳しく書かれていて、大変参考になります」と小林事務局長。

企業の定年年齢の引き上げなどに伴って、センターへの入会時の

年齢が平均六十八歳となり、活躍する会員の年齢が上昇している。

また、設立から三十二年目となり、高齢会員が目立ってきている。こうした状況から現在、高齢になっても会員でいられるセンターづくりに励み、令和三年度は八十歳以上を対象にした「ゴールド会員制

度」を創設した。本格的な取り組みはこれからという。

また、女性会員の活動では、月刊シルバーに掲載された先進センタールの取り組みからアイデアを得たり、刺激を受けたりしながら、平成三十年から楽しく集う場づくりを推進している。

「働く喜びや社会貢献活動に、新たな魅力をプラスしたいと考え、まずは女性会員が集まる機会をつくりました。四回ほどお茶会を開いて会員に参加を促し、令和元年六月にはハーバリウム（ドライフラワー）などをボトルに入れ、専用のオイルを注ぎ長く楽しめるようにしたインテリア）教室とお茶飲みを兼ねた会を開催。その後、会員から公募して「花の女子会」と命名しました」。

お茶会では参加会員から、「これまで一緒にやったことのなかった会員と話が弾んで楽しかった」といった声が聞かれた。

しかし、活動がいよいよ本格ス

タート、という矢先にコロナ禍となつてしまい、現在は力を蓄えているところだという。

アフターコロナでは、こうした機会を増やして、ゆくゆくは男性会員も女性会員も、また、市民ともつながれる活動にしていきたいと考えている。

### 地域社会を担う高齢者の居場所と出番の拠点として

市内の事業所に、「わざわざ求人募集を出すほどではないが人手が欲しい」「求人を出しても応募がない」「短期・臨時的に人が欲しい」などの隙間的な業務の依頼先として、シルバー人材センターの認識がほとんどないのが現状、と魚沼市S.Cでは分析。

そこで認知度を高めるため、令和三年十月は、会員募集と仕事募集のチラシを作成し、全戸配布する計画を立てている。

今後は、「1会員1入会運動」「1会員1仕事開拓運動」をさらに推

進していきたいとして、小林事務局長は次のように言う。

「普及啓発活動の充実を図るためには、会員の協力が欠かせません。そうした機運をどう高めていくのか、何か、きっかけや仕掛けを考えるヒントとして、今後も月刊シルバーを参考にします」。

これまでは、月刊シルバーを二部購読していたが、令和三年度からは二十一部増やして、二十三部購読している。その内訳は、理事十人、監事二人、会員代表の委員全員（地区総務員五人、地区安全対策員五人）に配布するほか、事務局に一部だ。

今後の月刊シルバーへの期待として、「高齢会員」「就業以外の活動」に関する企画を挙げた。

魚沼市S.Cでは、「地域社会を担う高齢者の居場所と出番の拠点」として、「みんなに親しまれ、信頼されるセンター」を目指している。この目標に向けて今後も、「自主・自立、共働・共助の理念を大切に

して、仕事や活動にやりがいを感じ、仲間と楽しみを共有できるセンター、何歳になつても会員でいられるセンターをつくりたい。会員と一丸となつて頑張ります」と、小林事務局長は抱負を述べた。

（増山美智子）

事業運営状況 (平成28年度～令和2年度)

年度	会員数			租入 会率 %	就業実人員 (延人員) 人 (人日)	就業 率 %	受注 件数 件	契約金額 千円	公民比 %
	男	女	計						
平成28	352	167	519	3.3	435 (37,699)	83.8	1,962	180,293	22.7/77.3
29	337	163	500	3.2	437 (36,734)	87.4	1,994	176,400	24.0/76.0
30	332	157	489	3.1	420 (35,775)	85.9	1,904	165,990	24.8/75.2
令和元	343	163	506	3.2	420 (34,211)	83.0	1,793	167,479	26.0/74.0
2	317	172	489	3.1	401 (33,081)	82.0	1,663	174,086	32.4/67.6

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値  
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業が対象  
 ※就業実人員は令和2年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む